

寄稿

ウガンダのコーヒーを 安房で飲みましょう

館山 河辺 智美

安房の高校生がウガンダ共和国の子どもたちを支援する交流活動は、今年で24年目を迎えました。安房南高校の生徒会活動から始まり、統廃合を経て安房高校JRC部が継承し、さらに安房西高校JRC部にバトンが手渡されています。

この間、活動に関わった高校生は延べ400人を超え、中には母子の代にわたって参加している方もいます。NPO法人安房文化遺産フォーラムとNGOウガンダ意識向

ています。安房からの継続的な支援により、2000年には安房南と命名された洋裁学校も設立され、職業自立訓練も行われています。

昨年、孤児の送迎や生活物資の運搬用車両が野生の水牛とぶつかって故障したため、緊急の支援依頼がありました。インターネットを通じてクラウドファンディングや房日新聞などを通じて募金協力を呼び掛けたところ、多くの賛同者から温かい募金が寄せられました。目標額1万2000円を達成し、現地で中古車両を購入することができたと、喜びの声が届いています。

このとき、館山で珈琲煎(ばいせん)工房カフエボリスを経営する鈴木正博さんは、ウガンダのコーヒー豆を仕入れてチャリティー販売を企画し、協力してくださいました。コーヒーベルトと呼ばれる赤道直下に位置し、標高が高く昼夜の温度差が大きいウガンダでは、自然栽培の良質なコーヒー豆を栽培することができ、アフリカ第2位の生産量を誇っています。

このとき、館山で珈琲煎(ばいせん)工房カフエボリスを経営する鈴木正博さんは、ウガンダのコーヒー豆を仕入れてチャリティー販売を企画し、協力してくださいました。コーヒーベルトと呼ばれる赤道直下に位置し、標高が高く昼夜の温度差が大きいウガンダでは、自然栽培の良質なコーヒー豆を栽培することができ、アフリカ第2位の生産量を誇っています。

これを契機として、ウガンダのコーヒー豆をフェアトレード(公平貿易)で取り扱い、継続的な支援につながりたいと思うか、鈴木さんから提案がありました。これを契機として、ウガンダのコーヒー豆をフェアトレード(公平貿易)で取り扱い、継続的な支援につながりたいと思うか、鈴木さんから提案がありました。

これを契機として、ウガンダのコーヒー豆をフェアトレード(公平貿易)で取り扱い、継続的な支援につながりたいと思うか、鈴木さんから提案がありました。

新しい支援のかたちが出来ました。これまで続いてきた交流の輪がさらに広がる可能性が期待できます。そこで、鈴木さんとNPO役員3人がウガンダを訪問し、CUEIの活動状況やコーヒー農園を視察することになりました。

ウガンダコーヒーは風味豊かで、自然にも体にもやさしいといわれています。その魅力を広く知っていただきたいと思い、安房地域

ウガンダコーヒーは風味豊かで、自然にも体にもやさしいといわれています。その魅力を広く知っていただきたいと思い、安房地域

内の喫茶店などに呼び掛けたところ、十数店舗の皆さんが快く賛同してくださいました。そこで、10月を「ウガンダコーヒー月間」と位置付けて、各店舗でウガンダコーヒーの提供やコーヒー豆の販売を行うキャンペーンを展開することになりました。

くしくも、10月1日は「国際コーヒーの日」であり、9日は「ウガンダ独立記念日」にあたります。7日は館山病院感謝祭で行うウガンダ支援バザーでもコーヒー豆を販売します。

この機会に、安房の皆さんがおいしいウガンダコーヒーを味わい、地球の反対側の生

産者と販売者と私たち愛飲者がつながることを通じて、市民交流がさらに深まり、貧しい子どもたちが笑顔で学校に通い続けられるよう、ささやかな力添えになれば幸いです。詳細は帰国後に報告しますが、この企画はコーヒー豆の販売・提供ばかりではなく、バザー品の提供や募金など広く協力を求めています。店舗経営者や個人の皆さまが、この趣旨に賛同してくださる場合は、ご連絡をお待ちしています。

お問い合わせはNPO法人安房文化遺産フォーラム(0470-221827)へ。

お問い合わせはNPO法人安房文化遺産フォーラム(0470-221827)へ。